

西山事件について

田中 史郎

本年度の卒業生が入学したのは 2010 年 4 月、その翌年の「3.11」を乗り越え、卒業に至った。その間、めまぐるしい早さで事物が移ろい、何事もなかったかのように時間が経過しているように思われる。本「あとがき」では、毎年その年に起こった事柄に關説しているが、本年は、どうしても昨年末に成立した「特定秘密保護法」*について述べておきたい。と言うより、それを予感させる「西山事件」**について、である。この許し難い悪法を考えると、どうしてもふり返っておかなければならない事柄に、いわゆる「西山事件」があるからだ。むろん、この当事者である元毎日新聞記者、西山太吉氏が存命であり躊躇するところもあるが、すでに公になっていると共に、是非とも知って頂きたい事件であるので、ここに述べることにした。

*正式名は、「特定秘密の保護に関する法律」。第 185 回国会、2013 年 12 月 6 日に成立、同年 12 月 13 日に公布。

**「西山事件」については、この昨年 9 月に亡くなった山崎豊子氏の小説『運命の人』で知られている。また、この小説は、2012 年に TBS 系でドラマ化して放映され、話題をよんだ。

さて、まず事実を確認しておこう。

40 年以上前のことになるが、1971 年に「沖縄返還協定」*が締結され、翌年に沖縄が返還されたことは周知のことだろう。「西山事件」とは、この沖縄返還協定にかかわるもので、このとき日米間に交わされた「密約」をすっぱ抜いた毎日新聞の記者である西山太吉氏などが国家公務員法違反で有罪となった事件である。別名、「沖縄密約事件」とも言われる。

*正式名は、「琉球諸島及び大東諸島に関する日本国とアメリカ合衆国との間の協定 (Agreement between Japan and the United States of America Concerning the Ryukyu Islands and the Daito Islands)」。1971 年 6 月 17 日に調印。沖縄の施政権が日本に返還され、沖縄県が復活した。

もう少し具体的にいうと、当時は佐藤栄作内閣の時代だが、その佐藤内閣は、沖縄返還協定に際して、本来は「アメリカが日本の地権者に支払う土地の現状復旧費用 400 万ドル (当時は 1 ドル = 360 円である) を日本政府がアメリカに秘密裏に支払う」という「密約」を交わした。実は、「密約」はそればかりではなく、米軍の施設引き渡し費用などと

して、更に巨額の支払いも決められていた。想像を絶するような金額が沖縄返還の見返りとしてアメリカ側に支払われたといえる。

しかし、この事実を政府はひた隠しにしており、そしてその後 1974 年に、佐藤栄作元総理はノーベル平和賞を授与された。政府は、あくまでも沖縄を金で買ったのではなく、政治的に平和的に返還せしめた、という態度をとっていたのである。

こうした状況で、この事実を暴露した西山氏とその情報を提供した当時の外務省の女性職員は、国家公務員法違反で逮捕、起訴された。西山氏は、第一審判決では無罪、第二審では懲役 4 月執行猶予 1 年、そして、最高裁では上告が棄却され、有罪が確定することになった。1978 年のことである。また、この女性は、懲役 6 月執行猶予 1 年の刑罰に処せられた。もちろん、刑事罰も大きなことだが、これによって二人の人生は大きく変わったことは、想像に余りある。

ところで、西山氏がこの「密約」情報を女性事務官から入手したことから、男女関係が取りざたされ、西山氏の女性問題が週刊誌などで意図的に取り上げられた。問題の本質を「密約」から「女性問題」にすり替えるマスコミ操作が大々的に行われたのである。

もう少し続けて、経緯をたどってみよう。

先ほど述べたように、政府は一貫して「密約」の存在そのものを否定し続けてきた。しかし、その後、2000 年になって、アメリカ公文書館で、秘密指定が解かれた公文書類の中に、「密約」を裏付ける文書が発見されることになった。そこには、西山氏がスクープした以外に、先に触れたように、日本がアメリカに 1 億 8700 万ドルを提供する密約も記されていた。しかしそれにもかかわらず、政府はまだ「密約」の存在を否定し続けてきた。

その後 2002 年になって、それまで「密約」の存在を否定してきた、その時の当事者である外務省アメリカ局長であった吉野文六氏が、「密約」の事実を公表し話題をよぶことになった。しかし、また、「しかし」だが、それでも政府は「密約」の事実を認めようとはしなかった。当時の安倍晋三官房長官は「まったくそうした密約はなかった」と記者会見で臆面もなく述べている。

そしてその後、民主党に政権が交代し、事態が変わった。2012 年に当時の岡田克也副総理は、国会で、「歴代の首相、外相が、少なくとも 1990 年あたりまでに外務省から（密約の）報告を受けながら、国会の場でも否定してきたことは許し難い。我々は議会人として深刻に反省すべきだ。開き直りは許されない。」と語り、西山太吉氏に対して「本当に申し訳ない」と謝罪した。政府として初めて「密約」の存在を認めたわけである。

こうして 2012 年になって、西山氏はようやく名誉が回復されたともいえるが、当時、「密約」の存在そのものを否定していた政治家や官僚、あるいはマスコミも、この岡田見

